

薬剤耐性菌に注意してぶどうの病気を防除

要約

ぶどうの病気の防除において、ストロビルリン系薬剤に対するべと病の耐性菌発達を回避する新しい防除体系を確立しました。

研究成果の概要

1. 背景・目的

一般に病気の防除では、同じ薬剤を何回も使用すると、防除効果が低下することがあります（薬剤耐性菌の発達）。ぶどうのべと病の防除では、ストロビルリン系薬剤に対する耐性菌発達の回避が重要な課題です。そこで、その使用場面を減らした新しい防除方法を確立します。



写真 ぶどうのべと病(葉の症状)

2. 内容

- ・ストロビルリン系と異なる系統で、実用性が高い薬剤を選定しました。
- ・異系統の薬剤をべと病の防除方法に組み入れ、ストロビルリン系薬剤の使用場面を年3回から年2回と、1回少なくしました。
- ・平成26年青森県ぶどう病害虫防除暦（スチューベン基準）に取り上げ、べと病の新たな防除方法を普及しました。

3. 活用等

この技術を活用することにより、ぶどうの病気の防除では、ストロビルリン系薬剤に対する耐性菌発達の回避が期待されます。

表 「落花直後」からのべと病の防除方法

月	旬	散布時期	新しい防除体系(平成26年)	これまでの防除体系
6	下	落花直後	ライメイフロアブルを散布	アミスター10フロアブルを散布
7	中	大豆粒大 (7月中旬頃)	ジマンダイセン水和剤、アミスター10フロアブル、 ストロビードライフフロアブル、ホライズンドライフフロアブルの いずれかを散布	
8	上	8月上旬	アミスター10フロアブル、ストロビードライフフロアブル、 ホライズンドライフフロアブルのいずれかを散布	

注) 青字は新系統の薬剤
赤字はストロビルリン系薬剤

関連情報

- ・この技術は、平成26年度農作物病害虫防除指針にも掲載しています。
- ・詳細については、平成26年度普及する技術を参照してください。
<http://www.applenet.jp/~nouken/promote/sakumoku/kaju/H26K1.pdf>

りんご研究所 県南果樹部

Tel. 0178-62-4111

E-mail nou_ringokennan@aomori-itc.or.jp

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center
地方独立行政法人 青森県産業技術センター

